

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 101人

② 算数 101人

③ 理科 101人

5 留意事項

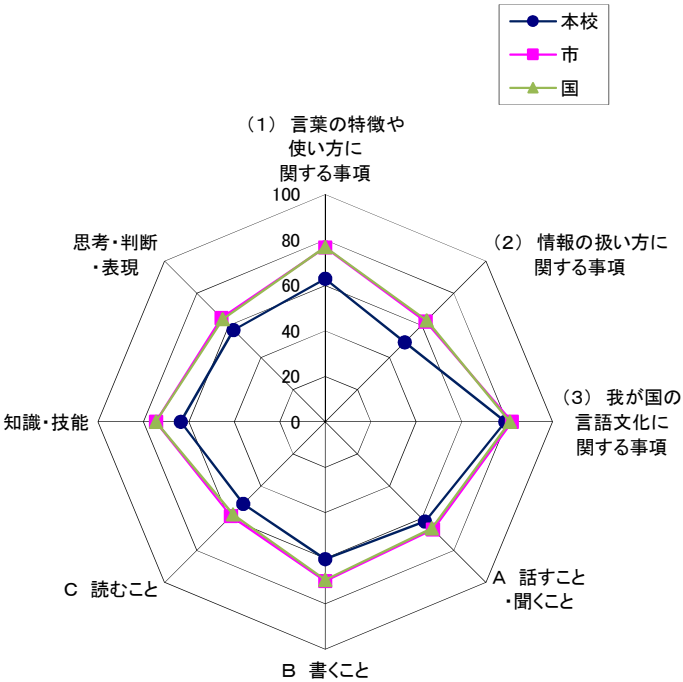
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	62.9	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	49.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	62.0	67.0	66.3
	B 書くこと	60.4	70.0	69.5
	C 読むこと	51.0	58.6	57.5
観点	知識・技能	63.6	74.5	74.5
	思考・判断・表現	57.1	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

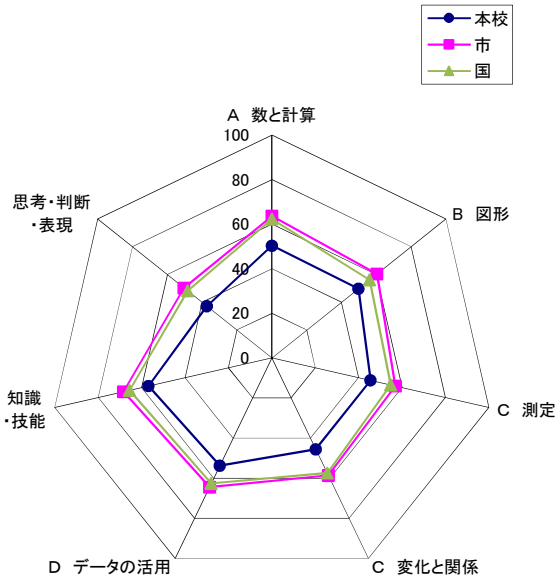
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を14ポイント下回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問における正答率は、全国平均を22.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、授業の導入や朝の学習の時間などで、既習の漢字の定着を図る。また、その前後の文脈を解読し、漢字の意味を推察させる習慣を身に付けさせる。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を13.6ポイント下回っている。 ○無解答率が0%であった。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」に関する設問は、全国平均を大きく下回っている。	・児童が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめる学習活動を授業内に構成していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を2ポイント下回っている。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみるの設問においては、全国平均を下回っている。	・日常的に新しい言葉やあまり使わない語彙に出会えるよう、教室掲示や国語辞典を使って意味調べをするなどの習慣化を図る。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を4.3ポイント下回っている。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問においては、全国平均を5.4ポイント下回っている。	・ペアやグループでの話し合い活動を充実させ、他の人の意見と自分の意見を比べて考える力を高めていく。 ・授業のまとめでは、「友達と比べて気付いたこと」「考えが変わった点」などを振り返る活動を取り入れ、学びの深まりを実感できるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を9.2ポイント下回っている。 ○目的や意図に応じて書いたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問において、無解答率が全国平均より下回る結果となった。 ●複数の条件を満たして文章で記述する設問では、全ての条件を満たして解答できた児童が少なく、正答率が50.5%と低くなっている。	・文章を書く目的や意図に応じて、伝えたいことや自分の考えを明確にしながらかき書いたり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。また、自分や友達の書いたものが、目的や意図に沿っているのか、互いに吟味し合う場を意図的に設けていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を6.5ポイント下回っている。 ○文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付ける設問では、正答率が全国平均と同程度である。 ●時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える設問の正答率が全国平均より9.3ポイント下回っている。	・文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進められるように、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えることを指導していく。

宇都宮市立五代小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	50.4	63.6	62.3
	B 図形	49.8	60.4	56.2
	C 測定	45.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	45.5	58.6	57.5
	D データの活用	53.7	64.4	62.6
観点	知識・技能	56.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	37.3	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

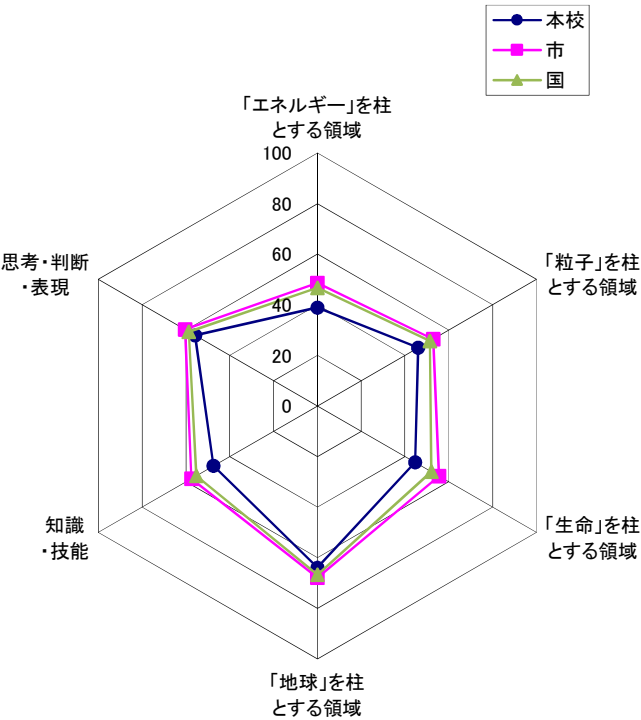
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は全国平均を11.9ポイント下回っている。 ○問題文から必要な情報を選択するまでは比較的 理解している。 ●棒グラフを読みとること、数量から式を立て、計 算することそれぞれに課題が見られる。 ●小数や分数においては、もとにする数を考え、も とにする数のいくつ分になるかの理解に課題が見 られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算の技能の定着を図る。 ・乗法や除法の計算の仕方において数直線を使って考 えるなど、もとの数のいくつ分になるかを考えて計算する ことができるよう指導していく。 ・習熟度別の学習を生かし、個に応じた支援の充実を図 る。
B 図形	平均正答率は全国平均を6.4ポイント下回ってい る。 ○正答率の数値は下回っているものの平均して各 項目の理解はある程度確保されている。 ●平行四辺形の性質をもとに作図することについ ては全国平均を10.8ポイント下回る。 ●台形の意味や性質について理解できているかにつ いては全国平均を3.7ポイント下回る。また、五 角形の面積について基本図形に分解して求める設問に ついては12.5ポイント下回る。	・基本的な作図を継続的に反復練習する。 ・公式を覚えるのみでなく、公式を導く過程をやなぜそ うなるか理由をきちんと押さえるようにする。
C 測定	平均正答率は、全国平均を9.3ポイント、県平均を 8.9ポイント下回っている。 ○無解答率は全国平均よりやや低い。 ●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみ る設問における正答率は、全国平均を5.5ポイント 下回っている。	・基本的な測定である長さ、重さ、温度、時間など測定器 や道具を使って測ることを繰り返し練習し身に付ける。 ・授業や日常生活の中で、対象となるものの大きさや量 を、基準となるものと比較したり記号で表したりできるよ う工夫する。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を12ポイント、県平均を 10.4ポイント下回っている。 ○問題を解決するために知りたい数量の大きさの 求め方を式や言葉を用いて記述する設問における 無解答率は、全国と県の平均を下回り、無解答児 童は少ない。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が 「増量前の量」の何倍になっているかを表す設問に おいては、全国平均を15.2ポイント下回っている。	・授業において、数直線や図などを使い、何を求めたらよ いか、何を問う問題なのかをきちんと把握できるような指 導をする。 ・「10%増量」の意味を児童の身近な問題として捉えられ るよう、実生活と結びつけ、興味関心を高める工夫をす る。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を8.9ポイント、県平均を 8.3ポイント下回っている。 ○簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶ 設問では、正答率は全国と県の平均よりやや低い が、無解答率は低い。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して読み取り、 その理由を言葉や数を用いて記述する設問では、 全国平均を8.2ポイント下回っている。しかし、無解 答率は全国平均よりも低い。	・データの読み取り方などの基本的な知識・技能を身に 付けさせるとともに、身近な題材を問題として設定し、必 要感をもって課題解決に当たれるようにする。 ・引き続き、市の「書くことキャンペーン」や、学校課題の 「語彙力の育成」と連携し、必然性のある言語活動を適 切に取り入れていく。

宇都宮市立五代小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	38.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	46.0	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	44.6	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	63.9	67.9	66.7
観点	知識・技能	47.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	55.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を7.8ポイント下回っている。 ○コイルの巻き数の変え方を書く問題では、無解答率は低く、問題を解く意欲は見られる。 ●金属が電気を通すか、磁石に引き付けられるかについては理解に課題が見られる。 ●電磁石に関わる問題では、国や県の正答率を大きく下回っており、今後の課題である。	・電磁石は生活の様々な場面で活躍しているが、児童が目にすることはほとんどない。従って、電磁石の性質を追究する際に磁石の性質を想起することで、学習の見通しをもたせながら支援していきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を5.4ポイント下回っている。 ○全体的に無解答率は低い。海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想する問題では、国や県と同様に高い正答率である。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付けて説明することに課題が見られた。	・水の蒸発の指導では、蒸発の仕組みを理解させるとともに、実験・観察を通して自然現象への興味・関心を深め、科学的な見方や考え方を育成することに重点を置いた指導をする。 ・身近な自然や生活と水の蒸発との関連性を意識させ、主体的な問題解決を通じて実感を伴った理解を促すよう工夫する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を2.8ポイント下回っている。 ○顕微鏡の操作に関する問題では、国や県と同等の正答率である。 ●ヘチマの花のおしべとめしべの違いや、受粉についての理解に課題が見られる。	・ヘチマの花と実の様子から、実になるのは花のどの部分かを予想して花のつくりを観察し、花にはおしべやめしべなどがあること、めしべのもとの部分が実なることをとらえさせる。 ・おしべの花粉のはたらきについて推論し、制御すべき要因に着目しながら受粉の実験方法を考え組み立てていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を11.9ポイント下回っている。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いに関する問題では、国や県を上回る高い正答率である。 ●水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けて答える問題では、無回答率がやや高く、課題が見られる。	・水の行方を理解するには、水の流れる仕組み、水のしみ込み方と地面の条件の関係性、そして水の蒸発と凝結の理解が必要となる。指導の際には、児童の既習の内容や生活経験を基に、観察や実験を通して根拠のある予想や仮説を立て、主体的に問題解決へ取り組む態度を育てていきたい。

宇都宮市立五代小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問では、95.2%の児童が肯定的回答をしている一方で、「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した児童も4.8%いる。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が92.3%で、県平均と比較すると3.9ポイント、全国平均と比較すると5.4ポイント高い。教育相談や日々の生活の中で児童一人一人のよいところを教師からも伝えていくことで、児童が自分のよさに気づき豊かな学校生活を送れるように援助していきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が90.3%で、県平均と比較すると4.8ポイント、全国平均と比較すると7.2ポイント高い。児童の将来の夢に対する高い意欲や必要感を今後も維持し、キャリア教育の充実に努めたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が99.1%で、県平均とは1.3ポイント、全国平均と比較すると1.9ポイント高い。今後も、いじめはいけないことだと、いじめゼロ強調月間や、いじめゼロ集会などの活動を通して児童に呼び掛けを続けていきたい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が94.3%で、県平均と比較すると11.3ポイント、全国平均と比較すると13ポイントも高い。「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的回答の割合も97.1%と高く、自己肯定感や有用感をさらに高められるようにしていきたい。

○PC・タブレットに関する複数の質問において、勉強のために毎日使用していると回答した児童の割合が県平均や全国平均と比較すると高い傾向が見られる。引き続き指導を行い学校生活において十分に慣れ親しみ、文具の一部として扱えるようにしていきたい。

●算数に関する複数の質問では、肯定的回答をした児童の割合が県平均や全国平均と比較すると低い。「得意ですか」は53.8%で、県平均と比較すると7.2ポイント、全国平均とは5ポイント低い。朝の学習の時間や習熟度別学習を通じて、苦手意識を少しでも減らせるよう支援していきたい。

宇都宮市立五代小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・言葉のサイクルを生かした授業づくり ・「使える言葉」を増やす意味調べ学習 ・学力向上の支えとなる土台づくり	・児童にとって必要感や必然性のある言語活動（目的のある言語活動）を取り入れた単元づくりを行う。 ・「書く」活動を意図的に設定することで、自らの学びを視覚化し、整理することができるようにする。 ・各学年に35冊ずつ購入した辞書を置いておき、ふだんから調べ学習に生かす。 ・朝の活動の時間を活用し、読書活動の推進、コグトレ、視写等に取り組む。	・各教科とも、多くの領域で正答率が県・市の平均正答率を下回っている。 ・自分の意見を書いてまとめることに課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と、基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。	- 基礎基本、既習内容の定着 - 基本的な学習態度の指導徹底	・朝の学習の時間を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。